

背景、皆自分達の苦心の作だつたら尙々楽しさは増す事と思ひます。お人形等は相當先生の手を加へねばならぬ事とせう。

臺詞等も各自考へたものゝ方が樂で又面白い事と思ひます。完成した暁には、〇〇座を開放し他の組の方をおまねきしたり、お芝居ごつこが賑かに展開されるでせう。

押くらまんじゆう 朝ちよつと冷える事があり、寒がりやさんはもう肩をすくめて寒がつてゐるかもしれませぬ。そんな人は引つぱり出して押くらまんじゆうをやりませう。

少人数ではおもしろくありませんから少くも七八人それ以上多いのは何人でも結構です多ければ多い程面白いでせう。人数に相當したあまり廣くない圓を畫いておきます。その中に皆後向に兩手を組み背中に突合せにまゝくんだり坐ります。立てや立てや、しやがめやしやがめで、たつたり、すわつたりするのですが、兩手を組んでゐますから仲々自由にゆきませぬ。自然と足でつゝぱり背中で押す様になりますので、ともすると圓の外に押出されてしまひます。圓の外に足一歩でも出ると、ぬかされます又、立つ時に立てなかつたりする人もぬかされます。そして次第に人数を減してゆくのです。寒がつてちよこまつてゐた人も汗びつしよりになつてしまひます。

輪なげ 雨がしと／＼降る様な時、お部屋で輪なげはどうでせう。この輪投げは簡単な一本の柱に輪を投げ込むのです。投げ込めた数を黒板なり、紙なりに書いて點をとつてしてみませう。大きい方は距離で調節したらよろしいでせう。

幅飛び お砂場の淵からピョンと飛んでみました。かうした體鍊遊戲も今の時代には是非と要求されてゐます。駈出してきてとんだり唯、飛んだり。先生は一人々々の距離をはかり出來ぬものは普通の標準の所にまで伸ばしてやる様にし、身體の鍊成と共に精神の鍊成も致し度と思ひます。この時特に注意せねばならぬ事は、何時も先生の監督のある事。砂場は石など決してない様綺麗にならしておく事でありませう。

落葉あつめ お庭を散歩してみると綺麗に色づけされた葉が澤山おちてゐます。特に綺麗な葉を集めてみませう。いちよう、もみち、つた、何ともいへぬその色にびつくりさせられます。あつめた葉はお畫がきにかいてみたり、又おし葉にしてみませう。新聞紙にはさみ、御本を少し澤山のせておくで一週間もすると美しく出來上ります。出來上つた葉はお帳面に張つておいてもよろしいでせう。秋の紅葉の美しさを保存でき何となくうれいものがあります。

遊 戲

古 澤 静 子

もうこの頃では、全體の中に自分をおく雰圍氣になれ、見てゐても、随分全體が揃つて行動出來る様になつて参ります。遊戲の効果は、やはりある程度、正確な動作によらなければならぬと思ひます。

雀の遊戲で、羽を動かす際には、兩手をよく伸ばして横に擧げ

おに二つこの遊戯で、松の木になるのには、兩足をしつかり踏みしめ、肘が曲がらない様、ぐんと伸ばして、秋空を突く様に元氣よく上に擧げる等、一寸した手足の上げ下ろしにも、一人々々の動作は、自然で最大限度に大きく、そして正確であるように、心がけませう。

それによつて始めて、體育的效果を高めると共に、愉快な氣分を味はふ事が出来るのですから。

秋の陽光を浴びて、お遊戯室ばかりでなく、大いに戸外で、踊る事が出来たら、一層楽しさを増すことが出来ませう。

「すゞめ」 日本幼稚園協會發行、最新作曲幼稚園唱歌集所載、隊形。一列圓形で右を向く。

「すゞめがちい〜鳴いてゐる」。兩手を横に擧げ、羽ばたきしながら、圓周に沿つて右へ一呼間に一歩づつ歩く。

「可愛いすゞめ何處で鳴く」。羽を擴げたまゝ、スキップで圓周をゆく。

「あつちの小枝で」。兩手を下ろし、そのまゝ圓周に沿つて二呼間に四歩の跼足で進む。

「ちつちつちつ」。其處に止まり上體を稍々前傾して、右(左)手を口の前で嘴の様に動かすと共に左(右)手を後に伸ばして、小雀の羽の様に動かして振る。

「こつちの小枝でちつちつちつ」。今と同じ動作を反對の方向に行ふ。鳴く時は、跼足の後、きちんと立ち止まつて動作する。

「もみぢ」 日本幼稚園協會發行、幼稚園唱歌選集所載

隊形。約二米半の間隔をおき二人向き合ふ。

「ほんのり赤いもみぢの葉」。各自拍手をしながら、兩方より同時に四呼間に四歩前進、次の四呼間で、同様拍手しながら後退する。

「もみぢの葉つばは綺麗だな」兩手を上に高く擧げ、指を開いてもみぢの葉の様に、ひら〜させながら、各自のまわりを一廻りする。頭をおこして、綺麗な葉つばを見ながら、

「パツと」。向き合つたまゝ、兩指をパツとひらいて兩手を前に出す。

「ひろげた」そのまゝ二拍手。

「赤ちやんの」パツとひろげたと同じ動作。

「おて〜のようで可愛いな」各自、上體を前傾し、始めの二呼間で右手右足(左手左足)を前出し、次の二呼間でひつこめる。この時、手は掌一杯に指をひらいて、もみぢの様な手の間から、相手の顔を覗くように、又足は、つま先を上げて踵をつける。この動作を左右交代で行ふ。

「おにこつこ」 日本幼稚園協會發行 唱歌選集所載

隊形。二人組み、ちやんけんをして、鬼と逃げる者を定める。

「おつかけるよ〜」。鬼と逃げる者とは向き合ひ、兩方拍手をしながら逃げる者は後すざりし、鬼は前へ前へと追ひつめてゆく。

「おつかけ〜鬼こつこ」。逃げる者はスキップで自由な方向へかけてゆき、鬼もスキップでそれを追ひかける。

「お庭のヒマワリ〜まわり」。逃げる者はしがんで、兩手を高

く擧げ、兩掌をよせて大きなヒマワリの花を作り、鬼はそのまはりなスキップで廻る。

「さら逃げよ〜」。一番のおつかけるよ〜と同じ動作。但し二番は鬼と逃げる者が交代する。

「鬼さんおいでよこつちです」。一番のおつかけ〜鬼こつこ、と同じ動作。

「お庭の松の木又廻る」。逃げてゐた者はその場に立ち止まり、兩手を伸ばして上に擧げ、兩掌を向き合せて、高い松の木になる鬼はその廻りをスキップで廻る。

この様に鬼と逃げる者とは交代しながら繰返す。

「小鳥のおはなし」 日本幼稚園協會發行 最新作曲幼稚園唱歌集所載

二人むき合ひ、前奏、を聞く。

「小鳥と小鳥のおはなしは」。向き合つてお行儀よくしやがみ、各自兩掌を合はせて四呼間に二回づゝ嘴の様に開閉する。小鳥のお口を大きくあけて、二人でお話をしてゐるやうに。

「ちゆん〜〜」。立ち上り、上體を前傾して兩手を後にびんと伸ばし、兩足を揃へて左右に二回とぶ。

「枝の上」。そのまゝの姿勢で、同様兩足を揃へ各自のまわりを跳んで一廻りする。

「向ふのお山のてつべんに」向き合つた二人同時に動作する。始めの四呼間で、右(左)手を伸ばしてお山を指さし、次の四呼間に下ろす。次に反對の方に同じ動作を行ふ。胸を張つて頭をおこ

し、向ふのお山を見上げる様にする。

「真赤な木の實がなりました」。立つて向き合つたまゝ、始めの四呼間で、兩手を横から前に持つて、兩掌を合はせ木の實を作り、次の四呼間で、その手を横に下ろす。この動作を二人同時に二回繰返して行ふ。

「甘いおいしい木の實です」。二人共そのまゝ、一呼間に一拍手し、「木の實です」の時に一呼間に二拍手づゝする。

二番

「小鳥と小鳥のお話は、」

「ちゆん〜〜」枝の上」 一番と同じ動作。

「向ふの小川の川べりに」。お山を指す代りに後の小川を指さす。

即ち四呼間に一度、體を後に捻轉し、手を後に伸ばして後の川を指さし、次の四呼間で、正面をむく。次に反對の方向に同じ動作をする。これも二人同時に行ふ。

「可愛いお花が咲きました」。木の實の代りに兩掌をよせて、指を開き、綺麗なお花にする。

「うす桃色のいゝにほひ」。一番の「甘いおいしい木の實です」と同じ動作。

「七五三」 日本幼稚園協會發行 最新作曲幼稚園唱歌集所載隊形。二人で同方向に向つて並び兩手を交叉して組む、そして全生圓周に沿つて右を向いてならぶ。

「ポックリポ〜音がある」。各自外側の足より二呼間に右足(左)、左足(右)と前に進み、次の二呼間に右(左)、左(右)、右(左)、とその場で足ふみをする。この動作を二度繰返す。

「今日はおもしろい」。向き合つて両手をつなぎ、二人でその場を一廻りする。

「七五三」二人向き會つて止まり、お互に両手を三回打ち合はせ、「んー」の時、各自三拍手する。

「ポックリポコ〜音がする」はじめの様に、二人並んで両手を交又して組み、スキップで、圓周にそつて進む。

二番

「ポックリちろろん鈴が鳴る」。一番の「ポックリポコ〜音がする」と同じ動作。

「長いたもとに」。その場に止り、二人向き合つて各右手をとり、高く上げて、その下を一人づゝ交代でくぐる。

「赤い下駄」。一番の「七五三」と同じ動作。

「ぼつくりちろろん鈴が鳴る」。一番と同様、二人手を組み、スキップで圓周に沿つて進む。

觀察

近くの學校、文房具

これは學校ごつこに就いてその遊びの中でする觀察である。がそれと別に、何かの機會に注意してし度いことである。兄弟達が行つてゐれば時々その機會もあらうけれどさうでない子ども達も多い時、やがては行くかも知れない學校といふ處へ親しみと、淡い可愛い、憧れともいへるやうな氣持を深めるやうな意味で、

清水光子

學校で運動會をしてゐる時見にゆくとか、お庭へ遊びに行かせてもらふとか、體操をみせてもらふとかして近づくことはいゝ事だと思はれる。そしてその折々に學校へ行く子達の作法を知らせたり見せたり、話したりも出来るであらう。文房具に就いても同じやうな氣持で扱へることと思ふ。この頃から何でもを大切に用ふ習慣をこんな機會からでもぜひつけ度い。

落葉

掃除といふと殊更めくけれど庭一ぱい散る落葉を子ども達と楽しんで集めたり、寄せたりする。保姆がまめに動いてその中で子ども達に手傳つてもらふといふ風にし度い。木を仰いで「すつかり散つたのね」「枯れてしまつたの」「いゝえ、ほら、こゝに小さなこぶみたいなものあるでせう、こゝに來年の葉つばが小さくたゝんで大事にしまつてあるの」「來年はつば出てくるの」「出てくるでせうね」などいふ會話をし乍ら。そして集めた葉を許さればたく。その灰は畑に入れる。又たかすに堆肥にする。「こやしにしませうね」といふ程度に話すので特別な説明はしない方がよいであらう。

煙

特別に書く迄もないけれど、落葉をたいたりなどし乍らそのにほひをかいだり、けむいことを経験したり、煙がもく〜出てもない時吹いて煙を出してもえる所をやつて見せたりする。あまり火に近づけないやうに呉々も氣をつけて。木の葉の時や、わらの時や、木の時や石炭の時など煙の色や匂に氣をつけさせる。